

# 第6節 美術

## 第1 本指導実践事例集の活用について

### 1 作成の基本的な考え方

本資料は、中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、埼玉県中学校教育課程編成要領、同指導資料、同評価資料の趣旨及び内容に基づき、各学校における美術科の指導計画及び学習指導と評価の一体化の充実に資するため、具体的な指導実践事例を挙げ作成したものである。事例の内容については、各学年のバランスとA表現(1)(3)、A表現(2)(3)及びB鑑賞(1)を網羅し、中学校学習指導要領においても重視されている改善事項から六つの視点で取り上げている。

各学校では、生徒、学校及び地域の実態に応じて、指導計画が作成されている。これに基づき〔共通事項〕を意識した学習指導を展開し、生徒一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し、学習指導と評価の一層の充実に本資料を参考・活用されたい。

### 2 取り上げた内容

本資料では、以下の視点で事例を取り上げている。

事例1	言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力等の育成を図った事例 「自分を見つめてI-平面表現・自画像-」自己の内面と深く向き合い、主題を決め、ハードパステルで自分を表現する。	第3学年	A表現(1)(3) B鑑賞(1)
事例2	小学校との連携を図った事例 「広がりのある風景～遠近感を学び風景を粘土で表現する～」広がりや奥行きを意識した風景を粘土で表現する。	第1学年	A表現(1)(3)
事例3	我が国の美術や文化に関する指導の充実を図った事例 「感じて、伝えて墨の力」墨と筆を用いて一瞬一瞬のきらめきや命の輝きを鋭敏に感じ取り、強い「思い」を表現する。	第3学年	A表現(1)(3) B鑑賞(1)
事例4	環境教育に関する指導の充実を図った事例 「キラリ輝く私のカタチ～砂型鋳造によるペーパーウエイトの制作～」金属の魅力に気づき、表現する。	第2学年	A表現(2)(3)
事例5	家庭や地域社会との連携を図った事例 「LIVE ART～〇〇中美術館～」美術を専門に学ぶ大学生の作品を大学生の解説とともに鑑賞する。	第3学年	B鑑賞(1)
事例6	美術の表現の可能性を広げる題材事例 「影で描こう！私の世界！」フォトグラムの手法で身近な自然物や人工物の形の魅力に気づき、表現する。	第2学年	A表現(1)(3) B鑑賞(1)

### 3 活用に当たっての配慮事項

#### (1) 発達の段階に応じた学習のつながり

各実践事例においては、小学校や前学年までの題材を「小学校と中学校の学習のつながり」として示し、学習の系統性を明らかにした。

#### (2) 学習評価の工夫改善

生徒一人一人が意欲的に楽しく学習するためには、生徒の思いや願いを教師が十分に理解して指導することが大切である。また、指導に当たっては、育成を図る資質や能力を明らかにし、生徒一人一人が、自分の思いで活動を進めることができるようにし、その子らしい表現を認めるようにする必要がある。これらのことから、評価規準を明らかにし、「B評価／おおむね満足できると判断される状況」に達しない生徒への指導の手立てを準備したり、試行錯誤・努力している「B評価」の生徒への指導の手立てを工夫したりすることが求められる。評価補助簿やデジタルカメラ等による記録を積極的に活用しながら、目標に準拠した評価の実施に努めたい。各実践事例においては、具体的な生徒の活動における指導と評価について学習の段階ごとに追えるようにした。とらえたい生徒の気づきや変容、指導の視点などについては、写真や吹き出し等で具体的に示し、活用しやすいものとした。

今後においては、評価を指導の改善に生かすという視点を一層重視し、指導過程や評価方法を見直ししながら、指導と評価の一体化の充実に資するとともに、評価の妥当性、信頼性の確保に努めていただきたい。

中学校学習指導要領解説美術編には、生徒一人一人がその特性を生かしながら資質や能力を十分に働かせるために、多様な学習ができるように明記されている。先にも述べたが、生徒や学校・地域の特性・実態を抜きにして、このことの実現は難しい。生徒が感性を働かせながら、つくり出す喜びを味わえるようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力の育成を図ることを目指し、上記に配慮しながら本資料の活用をされたい。

なお、本資料は学習指導案の作成においても十分に参考になるものであるが、形式については埼玉県教育委員会のホームページ内「埼玉県中学校教育課程説明会資料・美術」を参照されたい。

## 第2 実践事例

### 事例1 言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力等の育成を図った事例

自分自身と向き合いながら深く自己の内面を見つめ自画像に表す活動で、教師と生徒又は生徒相互に作品について対話する場を設定して言語活動を充実させ、自己の表現に関係する思考力・判断力・表現力等の育成を図った。本活動を通じて、発想や構想の能力を効果的に高めるとともに、自己肯定感や他者を尊重する態度、コミュニケーション能力の育成も期待する。

- 1 題材名 **自分を見つめて I -平面表現・自画像-** 【第3学年】  
**A表現(1) 感じ取ったことや考えたことを基にした発想や構想**  
**(3) 発想や構想をしたことなどを基に表現する技能**  
**B鑑賞(1) 美術作品などのよさや美しさを感じ取り味わう鑑賞**

小学校と中学校の学習のつながり

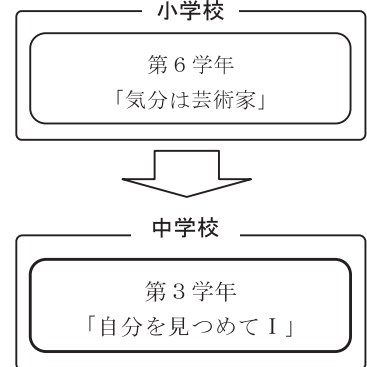
#### 2 題材について

「自分とは何だろう」という課題に取り組み、自分自身と向き合いながら深く自己の内面を見つめて、自画像に表す。中学校生活の思い出や将来への夢や希望、社会と自分との関わりなど、幅広く感じ取ったことから主題を生み出す。

また、ハードパステルを使用することで、描いた線等を消したり修正できたりする特性を生かし、安心感をもちながら表現方法の工夫を行うなどして、主題に合った個性豊かな自画像に表すことをねらった。

#### 3 目標及び評価規準

- (1) 目標 自分の姿を表現することに興味をもち、見つめて考えたことを基に表現の構想を練り、様々な技法で創造的に表現するとともに、自分や他者の作品から、自画像表現のよさや美しさを感じ取り味わう。
- (2) 本題材における〔共通事項〕例  
 ア 構想する場面では、主題を基に今の自分を表すときに、形や色彩などがもたらす感情や全体のイメージを意識して表現に生かす。  
 イ 作品に託した思いや意図について語り合う場面では、形や色彩の特徴を基に、対象のイメージをとらえる。
- (3) 本題材における評価規準 ◆「努力を要する」と判断される状況(C)の生徒への支援  
 ※アンダーラインは〔共通事項〕に関連した内容を示す。



美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
<b>関</b> 自分を深く見つめ感じ取ったこと、考えたことなどを表現することに興味をもち、主体的に主題を生み出し、構想を練り、表現しようとしている。 <b>鑑</b> 作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などに関心をもち、主体的に感じ取ろうとしている。	感性や想像力を働かせて、自分自身と向き合い、深く見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、考えたことを基に、主題を生み出し、心豊かな表現の構想を練っている。	感性や造形感覚などを働かせて、材料や用具の特性を生かし、自分の表現意図に合う表現方法を工夫するなどして創造的に表現している。	形や色彩などの特徴や印象などから全体の感じ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。
◆ 参考作品を基にして、自画像に込められた作者の心情を想像してみるよう言葉かけをし、一緒に考えていく。	◆ 自分の特徴や個性を確認できるような言葉かけをする。	◆ 今まで学習したもので生かせるものはないか表現方法を確認させる。	◆ 〔共通事項〕を視点にした言葉かけを行う。

#### 4 指導計画・評価計画 (10時間扱い)

学習活動	関	発	創	鑑	評価方法
1 構図を考える (2時間) ・自分らしさの追求 (スケッチ・自分らしさの洗い出し) ・相互鑑賞 (付箋に感想を書いて交換し合う)	○				<b>関</b> 発言、対話、記述 <b>発</b> 発言、対話、記述
2 制作に取り組む (3時間)			○		<b>創</b> 発言、対話、作品
3 相互鑑賞会を行う (1時間) ・グループ (一人ずつ発表、話し合い活動を通して) ・全体6名 (グループ1名代表) ・各グループにて全員		○			<b>発</b> 発言、対話、記述 <b>鑑</b> 発言、対話、記述
4 制作に取り組む (3時間)			○		<b>創</b> 発言、対話、作品
5 鑑賞とまとめをする (1時間)	○				<b>関</b> 対話、記述 <b>鑑</b> 対話、記述

5 生徒の活動と指導と評価の実際 (10時間扱い)

学 習 活 動	生徒の具体的な姿 (・) と評価 (評・指導) : 各段階の評価・指導、→ : 見取った姿 ※ T : 教師の発言 [A評価] : 十分満足できると判断される状況・[B評価] : おおむね満足できると判断される状況	
	Yさんの活動	Sさんの活動
1	<p style="text-align: center;">自分を見つめて I — 自画像に挑戦 (新しい自分との出会い) —</p> <p>第1～2時の教師との対話</p>   <p><b>道徳教育の充実の視点</b> 自他共に正面から向き合うことによって、個性を発見し、それを認め合える関係づくりにつなげる。</p> <p>Y : 僕は、まじめが売りです。だから笑わず、澄ました表情にしました。 T : まじめな表情にはどんな特徴がありますか。 Y : 目が真剣なところだと思います。 T : なるほど！では、その真剣な眼差しをより効果的にスケッチしてみてください。 Y : 先生、横顔より正面から見据える表情の方が、真面目さが伝わるかもしれないと思いました。 →自分らしさを見つけてスケッチしている。さらに、教師との対話により、思いを具体化するための方法として顔の角度に変化をつけることを考えている。 [評] 変化した2枚目のスケッチから、自分の思いを効果的に伝える表し方や構図を工夫したと判断する。 [A評価] (対話、作品、記述) [指導] 自分らしさを伝えるための効果的な表し方や構図をよく考えて活動していることを具体的に称賛する。その姿勢を他の生徒にも紹介し、そのよさを認めることができるようにする。</p>	<p>第1～2時の生徒同士の相互鑑賞</p>   <p><b>道徳教育の充実の視点</b> 他者からのアドバイスは、肯定的な言葉になるように指導する。「ここがこうよい。ここはこうするともっと良くなる」等になるよう伝える。</p> <p>Z : Sさんは何でミステリアスな表情にしたの。いつもにこやかで、周りを和ませてくれるのに。 S : 私は笑うと目が細くなってしまうの。そこで、澄ました顔にして目を大きく描きたかったの。 M : 私は『いつもにこにこで、頼れるお姉さん』という雰囲気はSさんらしいと思うよ。 S : そんなに私のことをほめてくれるなら、笑顔に自信ないけど、変えてみようかな。 Z : うつむきかげんで前を見ると、目が大きく見えるよ。微笑む程度の笑顔もいいと思うよ。 S : なるほど。あと、表情がよく分かるように耳を出してみようかな。 →他者からのアドバイスを基に、自分らしさを改めて追求し、もう一枚スケッチを描いている。 [評] 他者との対話から発想を豊かにし、スケッチを新たに描き、構想を深めていると判断する。 [A評価] (対話、作品、記述) [指導] 他者との対話や付箋に書いたメッセージなどからの他者の思いを確認させ、さらに構想を深める取組ができるようにする。</p>
2	<p>第3～5時つづやき・作品</p> <p>Y : 卓球のユニホーム姿で構えることで、緊張感を強調しました。 →真剣さを表す眼差しと、緊張感を醸し出すユニホームが丁寧に描かれている。 [評] 構想の段階での思いが、意図に応じた表現方法で、描かれていると判断する。 [A評価] (発言、対話、作品) [指導] 表情が丁寧に描かれていることを称賛し、背景の表現にも見通しをもてるようにする。</p>  	<p>第3～5時の教師との対話</p> <p>T : 胸部の周りを省略しているのには、どんな意図があるのですか。 S : 自画像の周りに、私の好きなものを、イメージとして取り巻くように描き足したいのです。 →自分らしさを追求するために、背景の表現を考え、見通しをもって制作をしている。 [評] 表現意図に合う表現方法を工夫したり、制作の手順を総合的に考えたりしていると判断する。 [A評価] (発言、対話、作品) [指導] 見通しをもった意図的な表現を全体の前で称賛し、意欲をさらに高め、他の生徒に紹介する。</p>  

<p>3</p>	<p>第6時の生徒同士の相互鑑賞 Y: 迫力を出したいけど、いつまでもたっても色が薄くて、濃くならないなあ。背景で何とかならないかなあ。 O: 人物はよく描けているのだから、背景を濃くして迫力を出したらいいのでは? S: 背景より、さりげなく人物を引き立たせるものがないんじゃない。 Y: 皆さんのアドバイスを参考に、いくつかスケッチを描いてみようと思います。 →対話を通して他者からのアドバイスを自分の構想に取り入れようとしている。</p> <p>【評】 他者の創造的な表現の工夫を感じ取り、自分の作品に生かそうとうとしている。</p> <p>【B評価】 (発言、対話、記述)】</p> <p>【指導】 他者の意見やアドバイスを参考に、自分の構想をさらに発展できるようにスケッチし、見直しをもてるようにする。</p>		<p>第6時の生徒同士の相互鑑賞 S: 背景のイメージをスケッチしてみました。音楽部らしく楽器や鍵盤を入れたものと、楽譜とバラの花を取り入れたものの二つを考えてみました。バラの花は楽譜をイメージしています。 →相互鑑賞会に向けて自分の構想を提案するために、二つのスケッチを用意している。他者の意見も積極的に聞いている。</p> <p>【評】 自分の心情や意図を積極的に表現し、それを基に他者からの意見を聞き、表現の工夫に生かそうとしている。</p> <p>【A評価】 (発言、対話、記述)】</p> <p>【指導】 自分の思いや構想を他者に伝えるために、思いの数だけスケッチを描いていることを称賛する。他の生徒には、Sさんの作品について理解や見方を深めるよう伝える。</p>	
<p>4、5</p>	<p>第7～9時の教師との対話 Y: 頭と短パンは黒っぽいユニホームは青っぽいので、それぞれの部分のコントラストが強くなるように考えてみました。 T: これなら人物の存在が強調できていますね。 →人物を強調させるために、背景の色を3分割して描き分けている。</p> <p>【評】 色の特性を生かし、表現意図に合う新たな表現方法を工夫している。</p> <p>【A評価】 (発言、対話、作品)】</p> <p>【指導】 表現意図に合う新たな表現方法を、話し合いを基に見付け出していることを称賛する。効果的な表現方法は、他の生徒にも紹介し、今後の学習に生かすことができるようにする。</p>	 <p>【真剣な眼差しの僕】</p>	<p>第10時の生徒同士の相互鑑賞 N: 楽器や鍵盤の背景から人物の周りに空間を感じることができそうです。 S: はい、描くのに人物の手前か後ろか悩みました。 M: 背景が、手前から後ろの方へ立体的に流れているようで、心地よい空間を感じます。 S: 先生、バラと楽譜の背景の自画像も描いてみたいんですけどいいですか。 →見る者へ心地よさを感じさせるような表現で描かれている。さらに工夫して描きたいと意欲や思いが表れている。</p> <p>【評】 人物を意図的に表現するため、感性や想像力を十分発揮していると判断する。</p> <p>【A評価】 (発言、対話、記述)】</p> <p>【指導】 作品の中に空間を感じさせるような意図的表現を称賛する。他の生徒に、イメージをふくらませるために、人物だけでなく必要な物を積極的に取り入れているところも気付かせる。</p>	 <p>【吹奏楽と私】</p>
		 <p>【バラと私と音楽と】</p>		

## 6 まとめ

### (1) 事後の指導

校内作品展（自画像展）を設定し、全員の作品を展示した。“自分らしさ”に視点を置き、どのように表しているかを見合う場とした。また、それぞれの作品から作者の心情や意図と創造的な表現の工夫を感じ取れる場とした。

### (2) 考察

彫塑にも似た可塑性があるパステルを、1年生から段階を経て使うことで、人物画という難しい題材であるにも関わらず、生徒はリラックスして取り組むことができた。パステルは、描きたい色がすぐ選べる、グラデーションなど微妙な色の変化も容易に表現できる。また、他の画材とも相性がよく、細かな部分まで描き込むことができる。指先から直に伝わる感触を楽しみながら描いている生徒が多く見られた。

### (3) 今後の課題

自分らしさを表現するに当たり、じっくりと自分を見つめる時間を確保していきたい。また、教師との対話・生徒間の交流を密にし、多方面からのアドバイスや情報を共有できる雰囲気づくりを大切にしていきたい。

## 7 授業づくりのヒント

### 【ハードパステルのよさ】

本題材ではハードタイプのパステルを使う。パレットはA4の上質紙、その上でパステルを削り粉状にする。その粉を指先につけて描く。それが生徒にとって、従来の概念を覆すような、魅力をもたらす。触覚の最先端でもある指先で、直接描く心地よさ、作品から直に伝わる感触等が制作意欲をくすぐる。さらに形や色にとらわれず、自分の思いを最優先して大胆に描くことができるよさが個々の作品の魅力を生み出す。

つけたり、とったりすることが容易であるという粘土のもつ可塑性に相通じるものが、パステルにある。

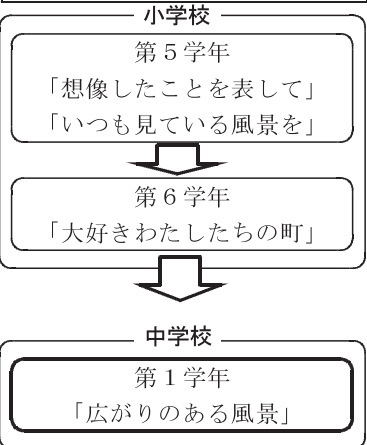


**事例2** 小学校との連携を図った事例

奥行きのある風景を粘土を使って表す活動で、小学校で学んできた主題の決め方や、材料や用具を振り返る場面を設定し、小学校の学習内容との連携を図った。本活動を通じて、発想や構想の能力と創造的な技能を一層高めるとともに抱いたイメージが効果的に実現するような奥行きを表す様々な方法や工夫について学習することを期待する。

- 1 題材名** 広がりのある風景～遠近感を学び風景を粘土で表現する～【第1学年】  
**A表現**(1)感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想  
 (3)発想や構想したことなどを基に表現する技能  
**B鑑賞**(1)美術作品などのよさや美しさを感じ取り味わう鑑賞

小学校と中学校の学習のつながり



**2 題材について**

遠近感のある風景をテーマに、広がりや奥行きのある空間を、大まかな遠近感や簡単な立体感の表し方を学習しながら粘土で表す題材である。本題材では、さらにつくり上げた粘土の風景を着彩することにより、遠近感や立体感を表す色の効果や美しさにも気付かせるようにする。風景を表現するにあたり、粘土は生徒が適度に抵抗感をもちながら、思いを表現できる材料である。意図に応じて他の材料や用具の生かし方などを考え、創意工夫して表現できるようにする。

**3 目標及び評価規準**

- (1) 目標 粘土を使った遠近感のある表現に関心をもち、記憶の中にある風景や創造した風景を基に構想を練り、意図に応じた材料で創意工夫して表現するとともに、自分や他者の作品の遠近感のある表現のよさや美しさを味わう。
- (2) 本題材における〔共通事項〕例  
 ア 発想や構想の能力を働かせる場面では、大まかな遠近感や空間、簡単な立体感など形や色彩、材料などの表現効果を意識して構想を練る。  
 イ 創造的な技能を働かせる場面では、自分の表したいイメージをもちながら表現する。
- (3) 本題材における評価規準 ◆「努力を要する」と判断される状況（C）の生徒への支援  
 ※ アンダーラインは〔共通事項〕に関連した内容を示す

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
<b>関</b> 粘土を使った遠近感のある表現に関心をもち、主体的に構想を練ったり、材料などを生かしたりして表現しようとしている。 <b>鑑</b> 作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などに関心をもち、主体的に感じ取ろうとしている。	遠近感のある風景をテーマに、感性や想像力を働かせて、記憶の中にある風景や創造した風景を基に主題を生み出し、 <u>創造的な構成や配色を工夫し</u> 、心豊かに表現する構想を練っている。	感性や造形感覚などを働かせて、 <u>形や色彩などの表し方を身に付け</u> 、意図に応じて材料や用具を生かしたり、制作の順序などを考え、見通しをもったりしながら創意工夫して表現している。	感性や想像力を働かせて <u>造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫、主題や材料の生かし方</u> などを感じ取り、自分の思いや考えをもって味わっている。
◆ 参考作品をいくつか紹介し、自分のイメージを広げるようにする。	◆ 自分で感じ取ったことを自分なりの方法で表現すればよいことを助言する。	◆ 対話を通して生徒が表現したい思いを聞き、その表現方法を共に考える。	◆ 他者の作品を自分の作品と比較しながら鑑賞するように伝える。

**4 指導計画・評価計画（10時間扱い）**

◇ 学習活動		関	発	創	鑑	評価方法
1 表したい空間と大まかな遠近感を意識しながら構想する。 (2時間)		○				<b>関</b> 表情・観察、対話
2 大まかな遠近感や簡単な立体感を意識しながら広がりのある風景を制作する。 (4時間)			○			<b>発</b> 表情・観察、対話、表現・作品
3 水彩絵の具の効果を意識し、効果的な着色を工夫する。 (3時間)				○		<b>創</b> 表情・観察、対話、表現・作品
4 自他の作品を鑑賞し、互いの思いやよさ、個性を理解し認め合う。 (1時間)		○			○	<b>関</b> 表情・観察、対話 <b>鑑</b> 対話・記述

5 生徒の活動と指導と評価の実際 (10時間扱い)

学習活動	生徒の具体的な姿(・)と評価 (評・指導:各段階ごとの評価・指導、→:見取った姿) T:教師の発言 [A評価] 十分満足できると判断される状況 [B評価] おおむね満足できると判断される状況	
	Cさんの活動	Kさんの活動
1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: 80%;">                     広がりのある風景 ～ 遠近感を学び風景を粘土で表現する ～                 </div>	
	<p>・準備した写真を基に、自分の思いをふくらませながら構想図をかいている。</p> <p>→自分のつくりたいイメージを、近景・中景・遠景にかき分け、空間を意識しながら、具体的に表している。</p> <p><b>評</b> 写真を基に空間や遠近感を的確に捉え、自分なりに工夫しながら、広がりのある構想図をかいている。</p> <p style="text-align: center;">[A評価] (表情・観察、対話)]</p> <p><b>指導</b> 対話により主題を基にした構想があることを確認し、特に構想に従って制作している具体的な部分を称賛する。さらに、小学校で経験した粘土の扱い方を思い出すよう伝える。</p>	<p>・用意した資料を基にかき写しながら考えをめぐらして活動している。</p> <p>→アイデアスケッチをしてイメージをふくらませている。</p> <p><b>評</b> 写真を基にして、イメージをふくらませて想像したことなどを基に主題を生み出そうとしている。</p> <p style="text-align: center;">[B評価] (表情・観察、対話)]</p> <p><b>指導</b> イメージを膨らませながら、主題を明確にすると、アイデアスケッチが、より具体的になることを伝える。</p>
2	<p><b>第3時の教師との対話</b></p> <p>T: 小学校の時に粘土でつくりながら、どんなことを注意するように言われたのか覚えているかな?</p> <p>C: 伸ばすとか、ねじるとかですか。</p> <p>T: そう、丸めるとか積む、巻くもあるよね。</p> <p>C: そのようなことを意識してつくったつもりですが、思い通りにいかなくて。</p> <p>T: では、ヘラを使って削り取ったり、少量の粘土を重ねることもしてみよう。</p> <p>→イメージをもちながら活動し、試行錯誤を重ねている。</p> <p><b>評</b> イメージを膨らませて想像したことなどを基に試行錯誤しながら主題を生み出している。</p> <p style="text-align: center;">[A評価] (表情・観察、対話、表現・作品)]</p> <p><b>指導</b> 制作の意図を言葉にできることは、しっかりと自分のイメージをもって活動していることと捉え、称賛するとともに、工夫されている表現方法などを他の生徒にも広めるようにする。</p>	<p><b>第3時の生徒同士の対話</b></p> <p>K: 木や山には厚みが必要なのかなあ。</p> <p>W: そうやって平べったく作ると、ある方向から見ると立体に見えるけど、全体としては絵に描いたのと同じになってしまうね。</p> <p>R: そう言えばそうだね。</p> <p>K: 「広がりとお行きを表すこと」がテーマだったね。</p> <p>R: だから、そんな位置関係にはなっているけど。</p> <p>W: じゃあ、厚みを加えていくといいんじゃないかな。横から見て、手を加えていくといいよ。僕は、見えない部分がつくってないけど、見える部分には厚みをつけてみようよ。</p> <p>→他者との会話から気付き、表現の方法を見直した。</p> <p><b>評</b> 他者との言語活動を通して、さらに空間を意識しイメージを膨らませて想像したことなどを基に主題を生み出している。</p> <p style="text-align: center;">[B評価] (表情・観察、対話、表現・作品)]</p> <p><b>指導</b> 他者との話合いにより気付いたことは、自分の表現を発展させていく価値があることを伝える。さらに自分のイメージしているものに近付けるよう、活動を見直していることも称賛し、新たな活動を進めていくよう促す。</p>
3	<p>・手前にある緑と遠くに広がる緑に、あまり違いがないことに気付き、空気遠近法を意識し、遠くにある緑に変化を加える。霞をかけるように白い色を置いたが、季節感を出すように赤や黄、黄土色など少量重ね紅葉を意識していた。</p> <p>・その後、近くにあるものは、より明確な色彩が必要と判断し着彩を重ね、特に近くにあるものには陰影を加えていった。</p> <p>→空間を意識し、自分のイメージと考えを効果的に表現している。</p>	<p>・一度、全体を着彩した。その後、再度その場所に色を加えるかどうか悩んでいる。自分のイメージに合う色が見付からず、色を何度もつくり直している。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><b>道徳教育の充実の視点</b></p> <p>透明水彩は、重ねれば重ねるほど深みや趣が出てくるので、自分のイメージが実現できるように、粘り強くあきらめずに表していくよう助言を行った。</p> </div> <p>→表現したい自分の思いがあるが、活動が進まない。</p>

【評】 自分のイメージを大切にするとともにさらにより表現方法を模索し、追求しながら、終始前向きな活動ができています。活動しながら自分なりの発見を繰り返していると判断する。



【評】 空間を意識して着彩を行っているが、さらに色を加えるかどうか悩んでいて活動が停滞している。解決方法を模索していると判断する。



【A評価】 (表情・観察、対話、表現・作品)】

【指導】 工夫しているところ、効果的に表現しているところを具体的に称賛する。効果的な表現方法についてはその後の絵に表現する活動にも役に立つことが多いので、他の生徒にも紹介し、そのよさを認めることができるようにする。

【B評価】 (表情・観察、対話、表現・作品)】

【指導】 この段階での良い場面を具体的に評価し、参考となる作品と見比べながら、自分自身の課題に気付かせる。活動してきたことが、絵に表現する活動でも役に立つことを伝え、意識が高められるように言葉かけをする。

## 6 まとめ

### (1) 事後の指導

大まかな遠近感や空間を意識させることは、絵などの表現にも生かせることを生徒に理解させ、今後の学習に生かしていけるようにした。

また、「努力を要する」と判断される状況にある生徒には、次に生かせるような具体例を示し、意欲を高めるようにした。

### (2) 考察

小学生の頃から慣れ親しんでいる材料の粘土ではあるが、系統性と発展性を捉え、生徒個々の表現が広がるようにした。

さらに、小学校図画工作との連携を深めるために、年間の活動や関係する題材を図などに表したものなどを作成し、小学校や中学校に掲示すると良いと考える。

例えば、小学校の高学年の児童が「中学生になったら、こんな学習をするんだ。」という見通しをもつことができたり、中学生が「小学校でやった、この学習を生かせるな。」などと振り返りができたりし、児童生徒の意識を高めることにつながっていくと考える。

### (3) 今後の課題

小中の連携を進めるためには、教師同士がまず連携し、相互に情報を交換したり、学習をつなげたりすることが大切である。効果的な小中連携により、教師が意識する以上に児童生徒の力を高めることができると考える。

また、小学校で学習した材料を研究し、生徒がその材料を発展させて使っていき題材を設定していく必要がある。

## 7 授業づくりのヒント

### 【3年間の授業の流れ】

右は、美術室廊下に掲示してある3年間の授業の流れを示した掲示物である。生徒はこれを見て、次の課題を確認したり、次の学年での課題を把握したりすることで、見通しをもつようになる。小学校にも同様の掲示を行うことにより、中学校の学習を、児童に知ってもらえることも小中連携になると考える。

### 【自分の色】

1年生の最初に「日本の伝統色」などの中から自分の色を決め、3年間、自分の作品の中には必ず登場させるようにする。作品の系統性をもたせるとともに、自分らしさを発揮する手立てとなる。

### (作品制作における生徒の感想)

家の後ろに、木や山を配置することによって遠近感が出るように考えました。

着彩では、いろいろな緑を使うことによって古ぼけた感じが出るように表現方法を工夫しました。



### (作品制作における生徒の感想)

作品の工夫したところは、山の大きさです。遠近感を出すために一番大きい山をあえて手前の建物と同じくらい大きさにしました。

また、空間の広がりをおぼわすために波を扇型に広げました。着彩では、水の透明感を表現できるように考えました。

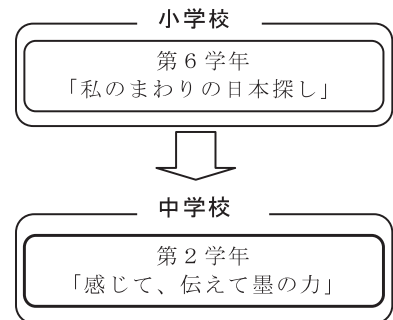


**事例3** 我が国の美術や文化に関する指導の充実を図った事例

墨や和紙、筆を使った表現及び鑑賞の活動で、日本の美術のよさや美しさを具体的な体験を通して得られる場面を設定し、我が国の美術や文化に関する指導の充実を図った。本活動を通じて、鑑賞の能力の育成とともに、命の尊さや物を大切にしていこうという日本文化の根源的な感覚に触れ、文化を未来に引き継ぐ使命について学習することを期待する。

- 1 題材名 **感じて、伝えて墨の力【第2学年】**  
**A表現(1)感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想**  
**(3)発想や構想したことなどを基に表現する技能**  
**B鑑賞(1)作品のよさや美しさを感じ取り味わう活動**

小学校と中学校の学習のつながり



2 題材について

本題材は、自然や身近な環境の中の美しさや生命感を感じ取る能力の育成を目指して、和紙に墨や筆を使って水墨画に表すことで、日本の美術のよさや美しさを実感する題材である。筆や刷毛の動かし方、水のふくませ方を変えて生まれる墨と水による様々な形や色彩で、自分なりの表現をする。墨が生み出す一瞬一瞬の美しさや生命感を鋭敏に感じ取り心豊かに表すことをねらった。

3 目標及び評価規準

- (1) 目標 対象を深く見詰め感じ取ったこと、考えたことなどを、墨で表現することに関心をもち、墨で描いた形や色彩の効果を生かした心豊かな表現の構想を練り、自分の表したいイメージをもって表現するとともに、生活を美しく豊かにする日本の美術や伝統と文化のよさを感じ取り味わう。
- (2) 本題材における〔共通事項〕例  
 ア 着想や鑑賞の場面では、自然や身近な環境の中に見られる形や色彩、それらがもたらす感情などを理解する。  
 イ 発想や構想及び鑑賞の場面では、自分の感じ取った表現したい美しさのイメージをとらえる。
- (3) 本題材における評価規準 (◆「努力を要する」と判断される状況 (C) の生徒への支援  
 ※アンダーラインは〔共通事項〕に関連した内容を示す

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
<b>表</b> 対象を深く見詰め感じ取ったこと、考えたことなどを、墨で表現することに関心をもち、主体的に主題を生み出し、構想を練り、表現しようとしている。 <b>鑑</b> 水墨表現に見られる造形的なよさや美しさなどに関心をもち、主体的に日本の美術や伝統と文化を感じ取ろうとしている。	主題などを基に感性や想像力を働かせ、墨で描いた形や色彩の効果を生かして単純化や省略、強調、材料の組合せなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練っている。	感性や造形感覚を働かせて、 <u>材料や用具の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして、総合的に考えながら、創造的に見通しをもって表現している。</u>	感性や想像力を働かせて、 <u>自然や身近な環境の中に見られる造形的なよさや美しさなどを感じ取り、自然との共生などの視点から、生活を美しく豊かにする日本の美術や伝統と文化のよさなどを味わい理解している。</u>
◆ 教師が筆をとり、実演してみせ、意欲を引き出す。 ◆ 水墨表現のよさや美しさを例示し、自他の作品の中に見付けることを促す。	◆ イメージがわきやすいようにヒントになる言葉かけをする。	◆ イメージづくりに立ち返らせ、対話や参考作品を見せながらアドバイスを。	◆ 他者の発表をしっかりと聞くよう促し、自分なりの意見がもてるように、考えを記録させる。

4 指導計画・評価計画 (4時間扱い)

学習活動	関	発	創	鑑	評価方法
1 水墨による多様な表現を理解する。墨の色の不思議や水による効果、無駄の無い描線の魅力等を感じ取る。 (1時間)	○				<b>関</b> 表情、観察
2 自然や身近な環境の中に見られる形や色彩など、対象の持つよさや美しさ、生命観を感じ取り、言葉に置き換えてイメージを明確にする。 (1時間)		○			<b>発</b> 観察、対話、記述
3 にじみ・かすれ・ぼかしなど墨独特な形・色彩を工夫し、主題などを基に表現をする。 (1時間)			○		<b>創</b> 観察、作品
4 イメージしたことを言葉にして発表する。 (1時間)	○			○	<b>関</b> 表情、観察 <b>鑑</b> 作品、発言、記述




5 生徒の活動と指導と評価の実際 (10時間扱い)


学習活動	生徒の具体的な姿(・)と評価(評・指導:各段階の評価・指導、→:見取った姿) T:教師の発言 [A評価]:十分満足できると判断される状況・[B評価]:おおむね満足できると判断される状況・[C評価]指導を要すると判断される状況	
1	<p style="text-align: center;">Hさんの活動</p>  <p><b>評</b> 対象をよく観察し、自然物の美しさを主体的に感じ取っている。墨と筆と水による表現を積極的に試している。 [[A評価] (表情、観察)] <b>指導</b> どこに美しさを見つけたか聞く。見つけたものを発表させ、他の生徒の参考にさせる。称賛すると同時に、墨の様々な可能性を示唆する。</p>	<p style="text-align: center;">Iさんの活動</p>  <p><b>評</b> 対象の観察が不十分で自然物の美しさを充分に見いだしていない。墨と筆と水による表現が積極的ではない。 [[C評価] (表情、観察)] <b>指導</b> 技術的な課題があっても、目の前の対象の美しさについて優先的に目を向けさせ、気付かせる。</p>
2	<p><b>【乾筆】</b> 筆に付ける墨の量を少なくし、乾燥した感じを表す。</p> <p><b>【にじみ】</b> 和紙に描いた線や点の上し、水滴をたらし表す。</p>  <p>・感じ取ったことを言葉で表し、積極的に適切な表現方法を探っている。 T: どこを工夫しましたか。 S: 葉の部分です。刷毛を使って乾筆で描きました。 T: それはどうしてですか。 S: 葉の部分がびんと立っていて、生きている様子を強く感じたので、刷毛で勢いよく描きました。 T: 生きている勢いのよさが現れていますね。 →感じ取った美しさを言葉に置き換えてイメージを明確にしている。 <b>評</b> 自然物の形や色彩、それがもたらす感情を理解し発想を言葉に置き換えイメージを明確にしている。 [[A評価] (観察、対話、記述)] <b>指導</b> イメージを明確にすることが、しっかりと構想を練ることになる。どんな用具を使い、どう表現するか具体的に考えたことを称賛し、他の生徒にも作品を紹介し、意図的な表現になるよう促す。</p>	<p><b>【花模様】</b> にじませ方を工夫し、花びらのように表す。</p> <p><b>【白抜き】</b> 白く抜けた形と墨の黒との対比で表す。</p>  <p>・葉の様子を描くうちに、表現がアーチ状になり、筆や墨を工夫して扱い始めている。 T: どこを工夫しましたか。 S: 本物に忠実に描きました。 T: おお、見えたとおりに描けたね。前の葉っぱと後ろの葉っぱの「緑のアーチ」が、よく観察できています。さて、どんなこと感じて描いたのかな。 S: この植物の緑色がきれいだなと思いました。 T: なるほど。その感じが伝わるようにするには、どうしたらよいか。 →対象の葉の形の構成を工夫して表している。 <b>評</b> 主題などを基に、創造力を働かせ、創造的な構成を工夫し始めている。 [[B評価] (観察、対話、記述)] <b>指導</b> 体験を通して、墨の可能性を楽しませながら、イメージをふくらませ、言葉でも考えさせる。</p>
3	<p>・主題の「生きている植物の葉はびんとして、生き生きとしている」を確認し、それを抽象的に表現している。 T: 画面に何を描きますか。 S: 葉っぱだけじゃなくてもいいですか。 T: はい、いいですよ。何を登場させたいのですか。 S: 根っこです。 T: 根っこは土の中で見えない部分ですね。何か考えがありそうですね。 S: そうです。ぼくは、根や芽が出たところを想像して生き生き感を描こうと思ったのです。 →造形的な美しさ・命の輝きを鋭敏に感じとり、そのことを自分なりのイメージにまとめている。 <b>評</b> 墨のもつ可能性を十分に確かめ、言葉によって明確になったイメージを工夫して表している。 [[A評価] (観察、作品)] <b>指導</b> 明確な意図に基づく表現を全体の前で称賛し、意欲を高めるとともに、他の生徒に紹介する。</p> 	<p>・白抜きのもつ偶然の効果を楽しみ、自分なりの表現をしている。 T: どうですか。白抜き剤で描くのは。 S: はい、面白いです。白抜き剤を使うと、偶然できた形からいろいろな想像ができます。 T: それは素晴らしい。でも 『蘭の花』 初めに葉っぱを見た感じを忘れないようにしましょう。 S: はい、具体的な言葉にはなかなか置き換えられませんが、全体的なイメージは表せます。 →観察による表現から抽象的な表現へと転換し、主題を生み出している姿が見られた。 <b>評</b> 形や墨の濃淡の美しさを楽しむことができる。偶然ではあるが、自分が対象から受け取った美しさを意欲的に工夫して表現していると判断する。 [[A評価] (観察、作品)] <b>指導</b> 自由で抽象的な表現に取り組みながら考えをめぐらしていくことにより、主題が生み出されていることを伝える。</p> 

4


- ・自他の作品から作者の心情や意図をつかみ、鑑賞カードに的確な言葉で記入し積極的に発表している。
- 墨独特の可能性や美しさを理解し、他者の表現を認めている。



H: 一人ぼっちの人が真ん中の木の下で寂しそうに夕日に照らされて立っている。



A: 黒い部分は夜空じゃないかな。真ん中の木は七夕の竹で中央にいる人は星空を見上げている。



I: ぼくは、同じ絵でも、七夕になったり、寂しい気持ちを表していたり、いろいろならえ方がありました。

B: 手前にある木が笹で、後ろにある黒い丸が天の川をイメージして描いたと思うという意見を聞いたときは、私が全く気付かなかったことなので、びっくりしました。

**評** 他者の発表を参考にしながら、自分が感じたことをまとめていると判断する。  
[B評価] (行動観察、記述)

**指導**  
道徳教育充実の視点  
自分なりの考えや意見がもてるように促す。特に作者の心情に共感的な読み取りができたときは、道徳的な視点からも他者を認め、理解できたとして称賛する。

**評** 自他の作品を鑑賞し、作者の心情や意図を感じ取り、表現の工夫などをとらえていると判断する。  
[A評価] (作品、発言、記述)

**指導** 主体的な発言や、自他のよさを積極的に認め合える鑑賞態度を称賛する。

## 6 まとめ

### (1) 事後の指導

水墨画の作品は展示に一手間かかる。和紙を使用しているため、展示に耐えられるよう裏打ちし、できれば表装して和の展示空間をつくりたい。また、このような取組と同時に日本画や水墨画などの鑑賞にも興味をもたせていきたい。

### (2) 考察

墨は字を書くものという認識はあっても、絵を描くという認識は薄い。墨で直接下描きもせず一気に描くのは、かなりの緊張が伴うものである。また、使い慣れない和紙も同様である。しかし、墨による表現が、どこか懐かしく我々の興味をそそるのは、私たちの体の中に刻まれている何かがあると考えることができる。墨の色の不思議や、水による効果、さらに無駄の無い描線は理屈抜きで快い。

### (3) 今後の課題

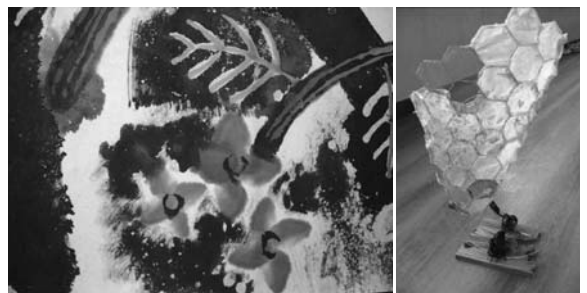
- ・墨と筆と水による表現には、生徒や児童が思い切り制作できる場づくりが必要である。十分な準備と心構えをつくりたい。大きなビニルシートやフェルトの下敷きがあるとよい。
- ・現在の生活では、日本独自の作品に触れる機会はとても少ない。一般に作品を制作するとしても、どこことなく西洋の美術のようになりやすい。こうしたことを考えると、水墨画の表現では、制作と作家作品の鑑賞を並行して行うことが大切と考える。

## 7 授業づくりのヒント

### 【水墨画のあかりづくりー楽しさを倍増する水墨画の掲示】

「あかり」とのコラボレーションを考えた。照明に浮か上がる墨絵は迫力がある。バックに着彩してもよいし、照明の内側にカラーセロハンなどを重ね貼りすると、くっきりした墨の色とカラフルな色のハーモニーができる。

構想段階から、出来上がりを見通した制作により、『形』から『色』主体の「あかり」づくりへと発展させ、生活の中の美術の働きや美術文化への理解を深めるとともに、デザイン題材とすることもできる。



**事例4** 環境教育に関する指導の充実を図った事例

身の回りや社会全体の環境への関心を高めるために、金属を素材として砂型鑄造でペーパーウェイトに表現する活動で、金属素材が身の回りの環境にどのように生かされているかを考え話し合う活動場面を設定し、美術を通じた環境教育に関する指導の充実を図った。本活動を通じて、金属の特性と用途への関心を高め、金属の特性を生かしたイメージなどを基に表現の構想を練り、工夫して創造的に表現する能力の育成を期待する。

- 1 題材名 **キラリと輝く私のカタチ**  
 ～砂型鑄造によるペーパーウェイトの制作～【第2学年】  
 A表現(2)目的や機能を考えた発想や構想  
 (3)発想や構想したことなどを基に表現する技能

2 題材について

本題材は、目的や機能を考えた発想や構想の能力、発想や構想したことなどを基に創造的に表現する技能を高めることを目指して、ずっと大切にもっていたいと思える「私の願い」を、砂型鑄造で金属のペーパーウェイトに表す題材である。

素材との出会いである導入時に、金属の特性や魅力について話し合うことで、金属が様々な身近な環境で活用されていることや、生活を豊かにするデザインの素材として重要であることなど、環境教育の視点にも触れるようにする。形を構想する段階では、効果的な学習にするために、描くアイデアスケッチだけではなく、粘土による立体アイデアスケッチを行う。

自身の発想が描かれたスケッチ、粘土でのスケッチ、発泡スチロールでの型、そして金属へと、自分の手がけた造形が徐々に変容していくことで生徒にとっては驚きや感動を味わわせることができる。完成した作品は素材の魅力を生かした生活を豊かにする一つの道具となる。表現を通して美術のもつ力が、生活環境の中で生かされていることを実感できる題材である。

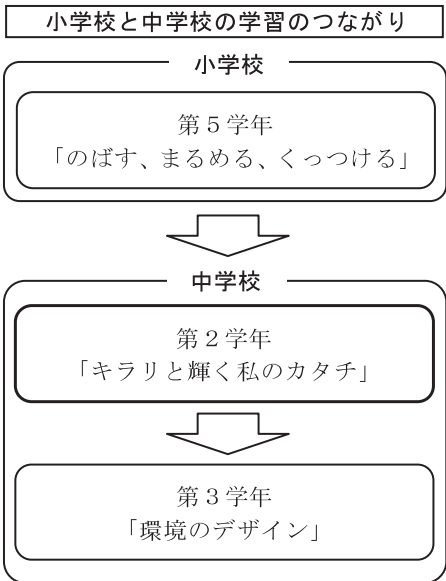
3 目標及び評価規準

- (1) 目標 金属の特性と用途を考えた表現に関心をもち、金属の特性を生かしたイメージなどを基に表現の構想を練り、表現方法を工夫して創造的に表現する。
- (2) 本題材における〔共通事項〕例  
 ア 発想や構想する場面では、金属及び発泡スチロールという材料の性質を意識して考える。  
 イ 創造的な技能を働かせる場面では、形の特徴などを基に、対象のイメージをとらえる。
- (3) 本題材における評価規準 ◆「努力を要する」と判断される状況（C）の生徒への支援  
 ※アンダーラインは〔共通事項〕に関連した内容を示す

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能
美術への創造活動の喜びを味わい、用途を考えて金属を加工して表現することに関心をもち、主体的に造形的な美しさなどを総合的に考えて構想を練ったり、 <u>金属の特性を生かしたりして表現しようとしている。</u>	感性や想像力を働かせて、ペーパーウェイトの機能、美しい形、 <u>自分が大切に使用したくなる気持ちなどを基に、造形的な美しさなどを総合的に考え、表現の構想を練っている。</u>	感性や造形感覚などを働かせて、 <u>金属の特性を生かした形を、自分の表現意図に合うよう、発泡スチロールで原型をつくり、鑄造や加工の過程では、制作の順序などを総合的に考え見直しをもって創造的に表現している。</u>
◆ 材料となる金属に直接接触させたり、参考作品や金属工芸品に触れさせたりする。	◆ 主題となる願いを生み出しやすくするために、身近な質問を具体的に示す。また具体的な形からイメージを広げるよう言葉かけをする。	◆ 粘土のアイデアスケッチを活用し具体的なイメージをもつことができるようにしたり、参考作品を活用し、道具の効果的な使い方などを伝えたりする。




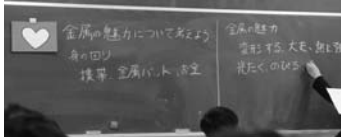



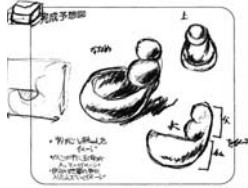




4 指導計画・評価計画（8時間扱い）

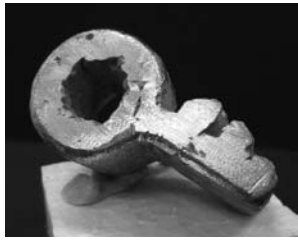
◇学習活動	関	発	創	評価方法
1 金属について話し合い、金属を素材として表現することへの関心を高めるとともに環境について考える。（1時間） ・金属加工映像の鑑賞、参考作品金属や工芸品の鑑賞	○			関 発言、記述
2 目的や用途、素材の特性を基に、主題を発想し、形を構想する能力を育てる。（2時間） ・主題設定 ・アイデアスケッチ、粘土による立体アイデアスケッチ		○		発 記述、表現
3 金属鑄造に適した形を工夫して造ることで創造的な技能を養う。 ・発泡スチロールによる型づくり（2時間）			○	創 記述、表現
4 砂型鑄造を鑑賞し、主題を表現するために適した仕上げをすることで創造的な技能を養う（3時間） ・砂型鑄造のための準備（砂詰め：1時間） ・磨き仕上げ（2時間）		○	○	発 記述、作品 創 記述、作品



美術

5 生徒の活動と指導と評価の実際 (10時間扱い)

学習活動	生徒の具体的な姿(・)と評価(評・指導：各段階ごとの評価・指導、→見取った姿) T：教師の発言 A評価：十分満足できると判断される状況・B評価：おおむね満足できると判断される状況	
	Aさんの活動	Bさんの活動
1	  <p>・題材の提案映像には集中していたが、その後の話合いでは、積極的ではなかった。ワークシートへの記述からは本題材への関心の高さが見られた。 (ワークシートへの記述に戸惑っている状態) &lt;第1時でのAとの対話&gt; T：もっと身近な場所でも金属は使われてないかな。 A：身近な場所って、どういうことですか。 T：教室の中でもいいし、持ち物だっていいんだよ。 A：シャープペンシルの先は金属だと思います。 T：そうだ。良く気付いたね。あまりにも身近すぎて普段は意識することもないのだね。でもまさに身近なものだよな。 A：よく見ると周りには金属で造られているものがたくさんあるね。どうして金属が使われているのかちょっと考えてみよう。</p> <p><b>道徳教育の充実の視点</b> 具体的なアドバイスから、本人が気付いた点をまずしっかりと認め、評価する。発言の中にある学びを整理していくことで理解を深め、自己肯定感をもてるようにする。</p> <p>→金属の特性や魅力、環境との関わりについて、アドバイスを受けながら考えを整理している。 [評] 材料に関心をもち表現への意欲が高まっている。 [B評価] (発言・観察・記述) [指導] 文房具や教室内などで金属が使われていることに気付かせるため、具体的な対話を通して考えを引き出し、班での意見交換を促した。</p>	  <p>・題材の提案映像を集中して鑑賞し、その後の話合いでも積極的な発言が見られた。ワークシートへの記述からは本題材への意欲と、素材への関心が見られた。(環境教育の充実に関する話合い活動) &lt;第1時でBが発表した内容&gt; B：班で話し合ったら、本当にたくさんの場所や物に金属が使われていることが分かりました。また、使われている場所や物によって、金属の硬さが違うことや磨くと輝く質感が生かされていることにも気付きました。普段は考えないのですが、素材の特性を生かしたデザインが私たちの生活の中にはたくさんあります。金属が材料なので、ずっと長く使えるような作品になるよう真剣にアイデアを練ろうと思いました。 T：どの班もたくさんの意見や発見がありましたね。生活の中に溢れている素材にはそれぞれのよさがあります。素材を生かし美しくデザインされた物にいかにも困まれた環境で生活しているかに気が付きますね。→生活環境の中でいかに金属素材が多く使われているかに気付いたことで、素材の特性や魅力を生かした表現への意欲が高まっている。 [評] 主体的に話合い活動に取り組み、材料の特性に関心をもち、表現への意欲が高まっている。 [A評価] (発言・観察・記述) [指導] 素材の特性だけでなくとどまらず、生活環境の中で活用されている点に気付いていたので、意見発表を促し、班だけでなく学級全体で素材と生活環境に関わる視点を共有できるようにした。</p>
2	  <p>・「生きる」という願いから主題を決定し、主題のもつイメージを基に抽象的な形を発想している。 →設定した主題が「生きる」という抽象的な言葉なので、形の発想に悩んでいたが、粘土を活用することでアイデアスケッチを進めることができた。 [評] 主題のもつイメージを基に、抽象的な形で表現するよう構想を練っている。 [A評価] (記述・表現) [指導] 粘土を活用して実際に形をつくり出すことで主題のもつイメージを形でつかめるようアドバイスをした。</p>   <p>・主題から考えた形を、粘土で立体アイデアスケッチし、その形を基にして、三面図で完成予想図に描きあげた。スケッチには「柔らかな丸み」という言葉のメモを書き込み、イメージをもっている。</p>	  <p>・部活動への意欲を主題にし、鍵やハート型など具体的な形を基にした形を発想している。 →部活動での取組から「仲間との絆と集中力」という主題を設定し、鍵やハートなど既存のイメージを利用した発想を数多く行っていた。またスケッチの際には粘土を活用して形を確かめながら行っていた。 [評] 主題から具体的な形を連想し、その形を基にした発想や構想をしている。 [B評価] (記述・表現) [指導] 主題から連想される既存のイメージからさらに発想を広げることができるようアドバイスをした。</p>   <p>・主題から考えた形を、粘土で立体アイデアスケッチし、その形を基にして、完成予想図に描きあげた。また、具体的な大きさや、形状のメモなども書き込んでいる。</p>

 <p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>完成予想図を基にして、発泡スチロールから铸造の型を削りだした。</li> <li>→完成予想図のままに削りだすと、铸造の際に金属が流れにくいことから、形を柔軟に変化させながら加工している。</li> </ul> <p>【評】 金属铸造の特性を考え、自分の表現意図に合うよう形を柔軟に発想し、発泡スチロールでの表現方法を工夫している。 【A評価】（記述・表現）</p>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>完成予想図を基にして、発泡スチロールから铸造用の型を削りだした。</li> <li>→アイデアスケッチと比較し、金属素材のペーパーウェイトとしての機能を考え、形に厚みをもたせるように加工している。</li> </ul> <p>【評】 金属铸造の特性を考え、自分の表現意図に合うよう発泡スチロールでの表現方法を工夫している。 【B評価】（記述・表現）</p>
<p>「生徒の作品についてのコメント」          &lt;題名：ALIVE&gt;          「生きる」をテーマにしたので、制作の最中も「自分はどうやって生きてきたのか」とか「育ててくれた両親のこととか」を考えながら制作していました。生命の柔らかさや弱さのイメージが浮かんだのですが、その中にある芯の力強さを表現できたらと思いました。テーマがシンプルだからこそ色々と悩んでやっと形になった作品です。大切に使ういきます。</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>铸造準備として砂込めを行い、铸造された作品を丁寧に磨きあげ、作品として完成させた。</li> </ul>	<p>「生徒の作品についてのコメント」          &lt;題名：こころの鍵&gt;          願いははっきりとしていたのですが、どのような形で表すかとても悩みました。仲間との絆と集中力を表すために最後は鍵の形に願いを込めました。型が金属に変わっていた時には、驚きがありました。悩んでいた私の思いが形になって本当に良かったです。ずっと大切に使用して、自分の仲間との絆を大切に、部活でも勉強でも集中力を高めるようにしたいです。</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>铸造準備として砂込めを行い、铸造された作品を丁寧に磨きあげ、作品として完成させた。</li> </ul>

<その他の生徒の作品>

6 まとめ

(1) 事後の指導

つくり上げた作品を生活の中で実際に使っている写真と、使ってみた感想をワークシートにまとめ、それを掲示し、鑑賞できるようにした。作品を実際に活用してみることで、作品が私たちの生活をより豊かなものにすることに気付かせ、身の回りの環境を「美術の視点」で考えるきっかけとなるようにした。



(2) 考察

金属という身の回りの生活環境に溢れている素材に注目することで、美術への関心や意欲が非常に高まることを実感した。また、ペーパーウェイトとしての機能だけでなく、素材の特性や铸造という制作方法から、形や大きさなど様々な条件が要求されるが、具体的な形を考えながら生み出していく学習となった。生徒は発泡スチロールでつくりあげた型が金属に変容することに大きな感動を感じることができた。実際に使用してみることで美術の視点を通して、改めて生活環境を豊かにしていくことの大切さに気付くことができたのではないかと考える。今後も社会の中で生かすことのできる力を、美術を通して高めていきたい。

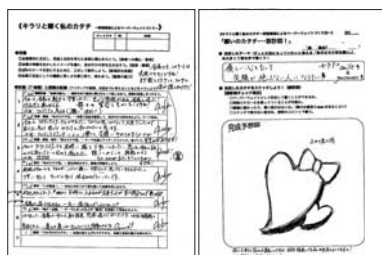
(3) 今後の課題

今回は「私の願い」をテーマにして主題を生み出すことに多くの時間をかけたため、長時間の題材となった。よりシンプルなテーマにすることで、素材とのふれあいを重視した創造体験となるのではないかと考える。年間指導計画の中でバランスをとることができるよう題材の配列も意識していきたい。

7 授業づくりのヒント

【制作記録ノートによるポートフォリオ】

長時間の題材の場合、制作記録ノートを作成し、アイデアスケッチなどをすべてをポートフォリオにしている。生徒はその時間で発見したことや学んだことを文章等で記録している。生徒にとっては学びを積み上げ、見通しをもつことにつながるとともに、教師にとっては過程を評価する大切な資料となる。



**事例5 家庭や地域社会との連携を図った事例**

近隣大学の学生の美術作品を鑑賞する活動を通して、作者である大学生と一緒に、作品について感じたことや思ったことを語り合ったり、作品に込められた心情や意図を理解したりする場面を設定し、地域社会との連携を図った。本活動を通じて、多様な表現内容や表現方法を鑑賞し、鑑賞の能力を高めるとともに、美術へのあこがれや自らの人生や生活を豊かに創造する意欲・態度をもつようになることも期待する。

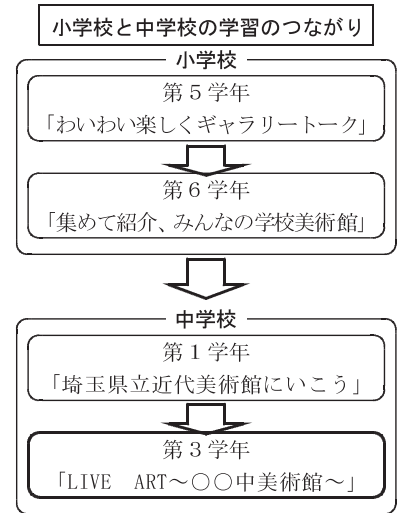
**1 題材名** **LIVE ART ～○○中美術館～【第3学年】**  
**B鑑賞(1)美術作品などのよさや美しさを感じ取り味わう鑑賞**

**2 題材について**

本題材は、作品や他者との対話を通して、①作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り、見方を深める ②自分の価値意識をもって批評し合うなどして美意識を高め幅広く鑑賞する学習である。直に作品と対峙し、作品のよさや美しさを感じ取るとともに、作者の真剣な思いに触れることで、表現することや表現する人に対して興味や関心を持ち、自己の表現活動や生き方について考えることをねらった。

**3 目標及び評価規準**

- (1) 目標 近隣大学生の作品の鑑賞活動に関心を持ち、造形的なよさや美しさ作者の心情や意図、創造的な表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。
- (2) 本題材における〔共通事項〕例  
 ア 作品等に対する思いや考えを話し合い、対象の見方や感じ方を広げる場面では、作品を構成している造形の要素や形、色彩などから生じる感情を理解する。  
 イ 作品などに対する思いや考えを話し合い、対象の見方や感じ方を広げる場面では、形や色などの特徴に着目して感じ取ったり、作品の全体的なイメージをとらえたりする。
- (3) 本題材における評価規準 (◆「努力を要する」と判断される状況 (C) の生徒への支援)  
 ※アンダーラインは〔共通事項〕に関連した内容を示す



美術への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
近隣大学の学生の作品の形や色彩などの特徴や印象、よさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などに関心を持ち、主体的に感じ取ろうとしている。	感性や想像力を働かせて、 <u>形や色彩などの特徴や印象などから全体の感じ、本質的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。</u>
◆ 形、色彩など、いくつかの鑑賞の視点を示す。	◆ 他者の意見に注目し、一人では気付かなかった視点や価値に気付かせる。

**4 指導計画・評価計画 (1時間扱い)**

学習活動	関	鑑	評価方法
導入 題材の把握 (5分)	○		関 発言、対話、表情、観察
展開 鑑賞 (20分×2回) ※8名程度のグループに分かれ4か所で鑑賞を行う。20分で交代し2作品を鑑賞する。各場所には、作者の他に、大学生のファシリテーターがおり、生徒の言葉を導き、つなぎ、見方を深めさせる。 ① 作品と出会う：自分の意見を発表する、他者の意見を聞く (7分) ② 作者と出会う：作者の思いを聞く (6分) ③ 価値意識をもって批評し合う：自分の意見を発表する、他者の意見を聞く (7分)		○	鑑 発言、対話、記述
まとめ (5分)			

※本題材では、活動全体を通して道徳教育1－(5)、2－(5)の内容の充実を図る。

※ファシリテーターとは、グループの活動が円滑に行われるように問題解決・合意形成・学習を促進する支援者を示す。

**5 生徒の活動と指導と評価の実際 (1時間扱い)**

学習活動	生徒の具体的な姿と評価 (評・指導：各段階の評価・指導、→：見取った姿) ※T：教師の発言
グループ I (Sさん/Kさん/Dさん/Oさん 他) の活動	グループ II (Gさん/Hさん/Iさん/Jさん) の活動
F：ファシリテーター 作：作者	F：ファシリテーター 作：作者
導入	T：今日の授業は学生の皆さんの作品を鑑賞します。授業のめあては次のとおりです。 ①作品をよく見て、感じて、言葉にしよう。 ②他者の意見を聞き、見方を深めよう。 1時間の授業の中で、考え方や見方が変化したり、深まったりするといいですね。

展開  
①

[F]: この絵について話してみても。  
S: ここに葉っぱが付いているよ。  
一同: 本当だ。なんでだろう。  
K: 絵の具がベタベタ塗ってある。  
→グループ一同、絵の具の特性や表現方法に注目している。



[F]: 絵の具をベタベタ塗ると、どんな印象になるでしょう。

K: 僕は、さっとしか塗ったことがないから想像しなくちゃ。

S: 絵の具が盛りあがってるから、インパクトがあるね。

K: 燃えている感じがする。なんかこう、メラメラとした感じ。

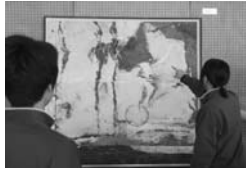
→他者の意見から発想を広げ、絵の具の塗り方や形に注目している。

[F]: 他にはどう見えるでしょうか。

O: 本に見える。

一同: どこが本に見えるの。

O: この形が、ほらこんなふうに。



→形からイメージを広げ、自らの見方を述べている。

K: ああ、なんか分かる気がする。開いている本って感じ。

→他者の意見を認め、共感している。

S: この絵は本が描かれているのかなあ。違う気がする。一体、何を描いてるんだろう。

(小さな声でつぶやきながら、作品に近付き、覗き込んでいる。)

→他者の意見に共感しながら、自分なりの見方を探している。

展開  
②

[作]: これは、地面や壁のひびなど自然の中にあるものを直接写し取って描いています。その場で直接クレヨンなどを使って、…こんな感じに。私たちの身の回りにはひびとか、自然にできた模様とかがいっぱいあって、私はそういうものに魅力を感じ、見付けるとその素敵な線を写し取って作品にしたいんです。(中略) 葉っぱが絵についていることに、自分でも気付かなかったけど、外で描いていたから、きっと私の絵の具の中に紛れ込んでしまったのですね。

展開  
③

D: じゃあ、そこの鮮やかな青は何ですか。

→作者の言葉を聞いて、新たな疑問が生まれている。

[作]: 私が写し取ったコンクリートがうっすらと青みを帯びているように感じたの。本当の色の奥の方にある色を引っ張りだして強く表しました。

D: 私は、その青が空に見えました。そのコンクリートには空の青さがしみ込んで、青くみえたのかも。それで、作者さんも強い青にしたのではないかと思えてきました。

→作者の言葉を基にしながら、自分なりの感じ方で作品を見ている。また、自分の考えを、根拠を明らかにして述べている。

[評] 作者の意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっていると判断する。

[A評価] (観察、対話)]

[指導] 自分の考えを、根拠を明らかにして表現することの大切さを伝える。

O: なるほど。でも、やっぱり本に見えるな。

→様々な意見に共感しつつも、自分の感じ方を大切にしている。

一同: わあ、すごいっ。リアル。

G: なんかジブリ映画の木みたい。トトロの家だ。

[F]: この絵からどんなことを感じますか。

H: 穏やかな雰囲気がする。

[F]: 何でそう思うの。

H: 描かれている木が大きくて、色合いも優しい感じがするから。

G: ジブリっぽいからかな。でも盆栽みたいにも見える。

I: もこもこしているから、ブロッコリーにみえる。

J: 上から見ている感じの絵だからじゃない。なんか、この辺から見下ろしているような感じがするよね。→俯瞰した視点で描かれていることに注目している。

[F]: 作者は上から見ているのでしょうか。

G: 飛んでるんだよ。ヘリコプターとか、崖から見るとか。

H: 私は、作者は木の下にあるこの家の中にいると思う。視点は上からだけど、そんな感じがする。

[F]: 何でそう思いますか。

H: 人は描いていないけど、家には誰かが住んでいそうな雰囲気があるから。

J: 幸せな家庭っぽい。

G: いや、おじいさんが住んでいそう。隠居して残りの人生は、自然に囲まれて生活したいって感じで。→描かれているものに注目し、イメージを広げている。

[作]: 地面に力強く根をはっている木を描きたいと思って描いた作品です。生きている感じを表現したいと意識したのですが、どうしても盆栽のようになってしまっ...

(その他、実際の木を見て描いたのではなく山水画を参考にして描いたことや、画家である父親への思いなどについても語る。)



J: お父さんのことも、自分のことも受け止めて描いた作品なんですね。

I: はじめは「リアルで上手だな」って感じで、ただの風景画かと思っていただけ、いろんな思いがあったことを聞いて、改めて見ると、この木が初めて見たときより、大きく優しく見える気がします。一枚一枚丁寧に描かれている葉っぱにも、その思いが込められているんだろうな。

→作者の思いに共感し、さらに深く作品を鑑賞している。

[評] 全体の感じ、本質的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっていると判断する。

[A評価] (観察、対話)]

[指導] 作者の心情や表現の工夫などを感じ取り、見方が変容し深まったことを自覚できるよう、声かけを行う。

### Sさんの感想

最初は作品をどう見ればいいのか全く分からなかったが、「本がある」とか「燃えている」などの意見を聞いて、いろいろなことが想像できた。「自分がこれかな？」と想像したこと、作者の表現したものは全く違ったけど、自分の感じたことを消さずに作品の意味と自分の考えた意味とを両方とっておきたい。

T：初めは作品の見方が分からなかったようだけど、他の人の意見を聞いて、自分の見方で鑑賞できるまでに変化したんだね。自分の感じたことを消さずに、作品の意味と自分の考えた意味とを両方とっておくという見方はとてもいいですね。

→様々な意見を基に、自分なりの感じ方で鑑賞している。

評 よさや美しさ、創造的な表現の工夫などに関心を持ち、主体的に感じ取っていると判断する。

[A評価] (発言)

### Dさんの感想

私は絵を描くことが好きなのでよく絵を描くのですが、そのものをそのままきれいに描くことが美術だと思っていました。今回、大学生の作品を見て、美術の見方が変わりました。そのままきれいに描かなくても、それを表現したいと思い、一生懸命に描こうとすることで、一つの作品になり、見る人に思いが伝わるものだと思います。今回の経験を経て、もっと美術を深く知りたいと思いました。そして、私も美術の世界を、もっと広く深いものにしていく人の一人になりたいと思いました。

→作品のよさや美しさを感じ取るとともに、表現することや表現する人に対して興味、関心を持ち、自己の表現活動や生き方について考えている。

評 本質的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっていると判断する。

[A評価] (記述)

### Hさんの感想

作品をいろいろな面で見ることができたと思います。僕が思ったこととは全く違う意見をもつ友達がいるのをとても面白く思いました。友達の意見に共感することは今まであまり好きではなかったけど、今日はなんだかみんなと共感することが楽しく感じられました。

→他者との対話によって、自身の見方が深まるとともに、自分自身の変容に気付いている。

評 よさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などに関心を持ち、主体的に感じ取っていると判断する。

[A評価] (記述)

### Jさんの感想

今日の鑑賞を通して、一つ分かったことがありました。それは「人の数だけ考え方がある」ということです。いろいろな人が、いろいろな考えをもって、いろいろな生き方をするからこそ、より面白い価値観が生まれるんだと思います。このことをこれから先の生活に生かしていきたいです。

T：自分の価値観をもつことはとても大切です。自分で考えて、判断して、自分の見方や意見をもつことは、これから皆が自分の人生を創っていく際に欠かせないものです。また、他の人の価値観を認めることも大切です。そのことに気付いたJさんは、すごいですね。

→作品のよさや美しさを感じ取るとともに、表現することや表現する人に対して興味、関心を持ち、自己の表現活動や生き方について考えている。

評 本質的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっていると判断する。

[A評価] (発言)

## 6 まとめ

### (1) 考察

本活動では教師から生徒への一方向の知識の伝達ではなく、教師、大学生、そして生徒間の多方向の学び合いが随所で見られた。個に応じた学びがあり、生徒のもつ能力の高さにも改めて気付くことができた。また、本活動は、学校全体の協力を得て実施し、多くの教員や保護者、地域の方が美術の授業に関心をもって参観した。生徒の新たな一面を見る一方で、自らも作品を鑑賞し、見方の変化や深まりを体感したとの声が多く聞かれた。この授業では大学と連携したことや広く授業を公開したことによって、地域の教育力の活用と育成にも手応えを感じる活動であった。

### (2) 今後の課題

学校、学年に合った活動を工夫しながら、活動を定着させていくことが課題である。生徒の実態に合った活動を工夫していきたい。

## 7 授業づくりのヒント

### 【“協働”の視点】

外部の方と連携した題材を設定することは、なかなか難しい。本題材も授業内容の打合せや、学校内外の調整に時間を要した。しかし、地域の教育力の活用によって、美術教師一人では伝えきれない多くのことを、様々な角度から伝えることができた。このような活動をさらに授業に取り入れていく必要があると感じた。

ただし、外部の方に来てもらうだけでは、高い教育効果は期待できない。学習のねらいを明確にすることと、他者や社会を意識し共に生きる“協働”の視点を持ち、生徒はもとより、協力してくれる外部の方や学校、教師にとって、互いに得るものがあり、学び合うことができる授業づくりをすることが大切である。



**事例6** 美術の表現の可能性を広げる題材事例

造形要素としての光に注目し、身近な自然の材料や、地域で入手しやすい材料を組み合わせ、感光紙を用いて、フォトグラムに表す題材である。特別な機材、材料、設備を必要としない上に、いろいろな工夫ができるので、生徒や学校の実態に合わせる事が可能である。制作によって身近にあるものの素材の形の面白さや、美しさ、光の効果を再認識し、発想や構想の能力や鑑賞の能力を一層高めることを期待する。

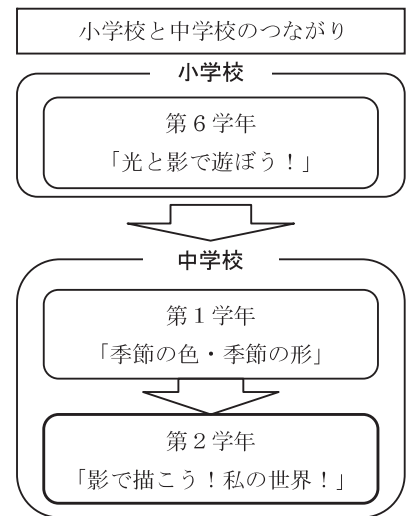
- 1 題材名** 影で描こう！私の世界！【第2学年】  
**A表現**(1)感じ取ったことや考えた事などを基にした発想や構想  
 (3)発想や構想をしたことなどを基に表現する技能  
**B鑑賞**(1)美術作品などのよさや美しさを感じ取り味わう鑑賞

**2 題材について**

本題材は素材の形に着目し、写真のもつ即物的な特性から、発想や構想の能力や鑑賞の能力を高めていく題材である。今日、デジタルカメラやカメラ付携帯電話などの普及により、飛躍的に写真を用いた表現が多様化している。誰もが気軽に写真を撮れる環境の中、学校現場でも写真を題材にした授業実践が多く行われている。今回扱うフォトグラムのための感光紙は、主に建築図面のトレースに使われ、熱で現像できる手軽なものである。

**3 目標及び評価規準**

- (1) 目標 身近にあるものの素材の形の面白さや、美しさ、光の効果をフォトグラムに表すことに関心をもち、自分の表したいテーマに合わせた構想を練り、組み合わせや光の明暗を工夫して表現するとともに、自他の作品からフォトグラム表現のよさや美しさを感じ取り味わう。
- (2) 本題材における〔共通事項〕例  
 ア 発想や構想の場面では、形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解する。  
 イ 創造的な技能を働かせる場面では、形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえる。
- (3) 本題材における評価規準 ◆「努力を要する」と判断される状況（C）の生徒への支援  
 ※アンダーラインは〔共通事項〕に関連した内容を示す。



美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
<b>関</b> 身近にあるものの素材の形の面白さや、美しさ、光の効果に関心をもち、主体的に主題を生み出し構想を練り、表現しようとしている。 <b>鑑</b> 形などの特徴や印象、本質的なよさや美しさに関心をもち、主体的に感じ取ろうとしている。	感性や想像力を働かせ、素材の形を意図的、効果的に組み合わせ、イメージを広げ、主題を生みだし、心豊かな表現の構想を練っている。	光の効果や感光紙の特性を生かし、表したいイメージをもちながら自分の表現意図に合う新たな表現の方法を工夫するなどして創造的に表現している。	感性や想像力を働かせて、フォトグラム表現の造形的なよさや美しさ作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わっている。
◆ 素材の形の面白さに興味をもてるように参考作品を複数提示する。 ◆ 新たな気付きがないかを一緒に探す。	◆ 素材の組み合わせや影の重なりについての言葉かけを行う。	◆ 露光時間や素材の重ね方についてアドバイスする。	◆ 他者の用いた素材や光の効果に注目するように促す。

**4 授業計画・評価計画(5時間扱い)**

学習内容	関	発	創	鑑	評価方法
1 影で描くフォトグラムの理解をし、素材の見立てをする。 (1時間)	○				関 表情、観察、発言、記述
2 イメージを基に自分が表現したいことを意識し、材料や光の効果を考えながら制作する。 (3時間)		○	○		発 対話、表現、記述 創 対話、表現、記述
3 作品を見合い、主題や工夫点を言葉にして伝え合う。 (1時間)	○			○	関 表情、観察、対話 鑑 発言、対話、記述

**5 生徒の活動と指導と評価の実際**

学習活動	生徒の具体的な姿(・)と評価(評)・指導：各段階の評価・指導、→見取った姿	T：教師の発言
1	・感光紙の特性を理解する。 <b>1</b> 感度が低い→暗室などを必要とせず明るい場所でも撮影が可能である。(暗室等の環境は不要) <b>2</b> 露光時間が目で見える→感光紙に光が当たると表面の色が黄色から白色に変化する。その色の変化を見ることで適切な露光時間をコントロールできる。 <b>3</b> 熱(アイロン)で現像を行う。やけど、火事への注意をする。直接感光紙の上に物を置いて撮影する写真の一技法を理解する。(主な作家：モホイ＝ナジ、マン・レイ、瑛九)	感光紙に直接素材を置く 熱を加えると像が出る
	<b>Aさんの活動</b> 	<b>Bさんの活動</b> 

1	<p>・家から持ってきた様々な材料で亀をイメージし、たわしを甲羅に、首、手足を葉でつくることにした。</p> <p><b>評</b> 身近にあるものの素材の形の面白さや、美しさ、光の効果に関心をもち、構成への工夫を主体的に行っている。</p> <p><b>[A評価]</b> (表情、観察、発言、記述)</p> <p><b>指導</b> 素材の豊富な準備が作品制作に生きていることを伝え、さらにより組み合わせや素材はないか伝える。</p>	<p>・筆箱の中身を基に制作を行った。</p> <p><b>評</b> 形の組み合わせや形の構成の工夫はおおむね満足できると判断する。</p> <p><b>[B評価]</b> (表情、観察、発言、記述)</p> <p><b>指導</b> 素材集めから作品制作が始まっていることを再認識させ、身の回りにある様々な形に着目させる。また露光時間の違いにより、色も変化することを発見させる。</p>
2	<p>・明るい場所(日向)を見つけて制作</p> <p><b>評</b> 周囲の明るさによって色を変化させられることに気付き、日向の場所で撮影をした。しかし、光が強すぎてイメージにあった色がなかなか得られない。</p> <p><b>[B評価]</b> (対話、表現、記述)</p> <p><b>指導</b> 光の強さによって得られる色が変わる事への発見を認め、強すぎる光だと撮影時間が数秒であるため感光しすぎてしまう。強い光は、撮影時間を自分でコントロールしにくい事を伝える。天気によって左右するのでメモをとらせる。</p> <p>作品のテーマ【マイアニマルワールド】 作品の主題を「形」に決定し作品制作を行う。</p> <p>A: 前回光の強さが分からなかったのどのくらいでどのような色が出るか試しました。左から10秒、20秒、30秒です。</p> <p>→光の効果をつまみ制作している。</p> <p>T: どんな動物をつくるの？</p> <p>A: 自分が好きな動物をつくりたい。</p> <p>T: このコアラの耳の素材は前回、亀の甲羅で使ったよね。</p> <p>A: 同じ素材でも、使い方を工夫するといろいろな形で使えることが分かりました。目には形が丁度良かったのでアサリを使っています。</p> <p>→形と形の構成の工夫がみられる。</p> <p>A: この魚は深海にいる魚です。落ち葉を沢山集めて鱗を表現しました。校庭に生えている雑草を海藻にして海の中をつくりました。</p> <p>T: 色が少し暗めにしたのは深海だから？</p> <p>A: そうです。光が当たりすぎないように調節して暗めの色が出るようにしました。</p> <p>T: にぎやかなアニマルワールドになりそうだね。</p> <p>→露光時間をコントロールし、自分の作品にあった色が得られるよう工夫している。</p> <p><b>評</b> 光の効果や感光紙の特性を生かし、表わしたいイメージをもちながら表現の方法を工夫して表現している。</p> <p><b>[A評価]</b> (対話、表現、記述)</p>	<p>・スポットライトを用いて制作</p> <p><b>評</b> 感光紙の特性を理解し、画面上で光の強さの違いにより得られる点に着目。明るく表現したい場所をスポットライトを用いて意図的につくりだしている。</p> <p><b>[A評価]</b> (対話、表現、記述)</p> <p><b>指導</b> 露光時間による色の変化を作品に生かすことで、それらがもたらす感情について指摘する。夜の表現や、光の表現を作品に生かすことが出来ることを伝える。露光時間をメモし、次に繋げる。光を効果的に用いることで自分の表現がより明確になる事を全体で確認する。</p> <p>作品のテーマ【月明かりの散歩】 作品の主題を「光」に決定し作品制作を行う。</p> <p>B: 家にいる猫の写真を持ってきました。これを使って作品をつくりたいです。</p> <p>T: 情景を工夫しているね。</p> <p>B: 夜、雨が降っていてその雨が上がり月明かりが出て散歩に行く猫を表現したい。</p> <p>T: なんてそういう状況を思い付いたの？</p> <p>B: 一人ぼっちの寂しさが「夜」で、涙が「雨」。月明かりが「希望」で、夜散歩に出た猫が仲間と出会う物語です。</p> <p>T: それぞれに意味があるんだね。</p> <p>→猫の形は印刷物を用い、その猫を主人公にしてまわりの情景を工夫し、作品に心情を込め、物語をつくらせている。</p> <p>B: この丸は、月のつもりですが、うまくいかなくて。</p> <p>T: 前回使っていたスポットライトを当ててみれば？</p> <p>B: そうか。そうしたら光る月が出来るかも。水はどうやったら撮影できますか。雨をつくりたいです。</p> <p>T: クリアファイルに感光紙を挟めば、水に濡れずに撮影できるよね。</p> <p><b>評</b> 表したいイメージをもちながら自分の表現意図に合う新たな表現の方法を工夫して創造的に表現している。</p> <p><b>[A評価]</b> (対話、表現、記述)</p>

## 6 まとめ

### (1) 事後の指導

一つの作品が出来るまでには沢山の過程があるので、作品展示ではワークシートや作品に至るまでの過程の作品も同時に展示すると学びの成果を確認できる。

### (2) 考察

フォトグラムは何度も撮影を繰り返すことで、面白い効果や意外な表現方法を見付け、徐々に主題を生み出していくことができる表現方法である。現像した作品を黒板に貼り、他者の作品を鑑賞できる環境をつくると、アイデアを共有でき、一層作品制作に挑戦していく意欲を高める環境をつくることのできる。

### (3) 今後の課題

不透明な素材の上に素材を重ねてしまう生徒もいるので、不透明、透明の素材で得られる影の効果をOHP等で確認することも必要である。

## 7 授業づくりのヒント

1時間で5枚ほど撮影を行う生徒もでてくる。その時、1枚目から完成した作品までの過程を残しておくことが大変重要である。その手立てとして、1時間ごとにつくった作品の裏に日付と露光時間、工夫点、使用した材料などを記録させ、次につながるようにする。1枚の完成作品だけを見ると簡単にできてしまうと思いがちであるが、そこに至るまでの試行錯誤が特に重要であり、その面白さを他の生徒とも共有させたい。

### 道徳教育の充実の視点

自分の心情を作品に込めているところを尊重して評価し、表現の工夫を共有し、自己の学びを確認できるようにする。

